

心理学実験ⅡB 2018～			科目コード	FB3536
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	SR（実験）	2年以上	大関 信隆・柴田 理瑛 平泉 拓	



※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 67「心理学実験Ⅱ」（科目コード：FB2506、2単位、履修方法SR）を参照してください。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学実験ⅡA」 p. 57参照

■到達目標

「心理学実験ⅡA」 p. 57参照

■教科書（「心理学実験ⅠA・ⅠB・ⅡA」「心理学研究法A」と共通）

「心理学実験ⅠA」 p. 37～38参照

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験ⅠA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「心理学実験ⅡA」 p. 58参照

■評価の方法・基準

①スクーリング受講＋②実験レポート（2つ）提出・合格＋③単位認定レポート（1課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：オンデマンド・スクーリングを受講してください。

②実験レポート（2つ）提出・合格：2種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（1課題）提出・合格：スクーリング受講後に、p. 66記載の「単位認定レポート課題」に示す2つの課題の中から1つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30%＋スクーリング（実験レポート）評価70%

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備考
Web	オンデマンド・スクーリング時に指示する	2021年2月28日	

■受講上の注意

推奨する受講順は「ⅠA」→「ⅠB」→「ⅡA」→「ⅡB」です。

「心理学実験ⅡB」は、「ⅠA」「ⅠB」「ⅡA」のいずれかのスクーリングを受講済みであることを推奨しています。どうしても2020年度に「ⅡB」を一番最初に受講希望の場合は、下記①②を行ってください。

①「ⅠA」事前レポート課題（p. 42参照）を、「ⅡB」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理学実験ⅡA」 p. 59参照

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「色残効」、「認知的葛藤」という2つの実験を体験します。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業となります。

回数	テーマ	内 容
1	オリエンテーション／色残効①	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	色残効②	実験実施
3	色残効③	データの分析
4	色残効④	実験法の観点からの本テーマの振り返りとレポート作成
5	認知的葛藤①	テーマ及び実験方法の説明
6	認知的葛藤②	実験実施
7	認知的葛藤③	データ分析と実験レポートの記述法
8	認知的葛藤④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／2つのテーマを通したまとめ

▶実験1「色残効」 (担当 柴田理瑛)

ある色を一定の時間観察したのち、色の無いところを見ると、これまで観察していた色とは反対の色が見えます（色残効：いろざんこう）。この実験では、色の観察時間が色残効に及ぼす影響を実験的に検討します。

▶実験2「認知的葛藤」 (担当 大関信隆)

既に知っている事実と、新しく得られた情報との間にズレがあることを私たちが認識した場合に、そのいずれかを採用すべきか、という葛藤が生じます。それを認知的葛藤と呼びます。本実験ではストループ課題という古典的な手法を用いて、この認知的葛藤の様相を検討します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング期間中の2つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを準備してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『福祉心理学科 スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習9のポイント

「心理学実験ⅡA」 p. 60～62参照

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後 1 課題選択

課題① (担当) 平川昌宏	系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。
課題② (担当) 柴田理瑛	社会的な手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から 1 つ選び p. 64 記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は 2,000 字程度を標準としますが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右 40 字 × 30 行 × 4 枚まで）。

課題① アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題② アドバイス

下記の参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけでなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

小窪輝吉. (1996). パフォーマンスへの内的誘因が社会的な手抜きに及ぼす効果.

実験社会心理学研究, 36(1), 12-19.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp1971/36/1/36_1_12/_pdf

内田遼介, 釘原直樹, 手塚洋介, 國部雅大, 土屋裕睦. (2016). “スポーツ集団内における集合的効力感の評価形成過程: 成員の課題遂行能力に着目した検討.” 実験社会心理学研究 56 (1): 33-43.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjesp/56/1/56_1509/_pdf

■参考図書

課題 1 : 山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題 2 : アロンソン, E. 岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル 第11版 人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミクス 集団と群衆の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年